

令和7年度

事業報告

令和7年4月 1日から

令和8年3月31日まで

公益財団法人 太田記念美術館

I 公益目的事業の実施状況

1. 浮世絵に関する展覧会の企画および開催

1) 企画展示

太田記念美術館において以下のとおり7つの展覧会を開催した。開館日数は260日間。

令和7年度の年間入館者数は118,684名を記録した。これは当初目標70,000名に対して170%の達成率であり、令和6年度(127,772名)に次ぐ、開館以来第2位の好実績となった。

中でも、「葛飾北斎 富嶽三十六景」展は26日間の短期開催ながら、26,151名を動員した。この記録は、展覧会毎の1日平均入館者数において、平成19年1・2月開催の大規模海外展「ギメ東洋美術館所蔵 浮世絵名品展」(43日間47,396名、1日平均1,102名)に次ぐ歴代2位であり、新たな来館者層の開拓に貢献した。

展覧会名	会期	開館 日数	入館者数(人)				
			有料	無料	総計	1日平均	うち小中生
没後80年 小原古邨一鳥たちの楽園 一般1000円、大高生700円、中学生(15歳)以下無料	前期 4/ 3～ 4/29 後期 5/ 3～ 5/25	43	16,813	595	17,408	405	270
鰭崎英朋 一般1200円、大高生800円、中学生(15歳)以下無料	前期 5/31～ 6/25 後期 6/28～ 7/21	43	9,993	515	10,508	244	194
葛飾北斎 富嶽三十六景 一般1200円、大高生800円、中学生(15歳)以下無料	7/26～ 8/24	26	24,537	1,614	26,151	1,006	1,356
蔦屋重三郎と版元列伝 一般1200円、大高生800円、中学生(15歳)以下無料	前期 8/30～ 9/28 後期 10/ 3～11/ 3	54	18,572	686	19,258	357	291
歌川広景 お笑い江戸名所 一般1000円、大高生700円、中学生(15歳)以下無料	11/14～12/14	27	10,268	323	10,591	392	145
浮世絵おじさんフェスティバル 一般1000円、大高生700円、中学生(15歳)以下無料	前期 1/ 6～ 2/ 1 後期 2/ 5～ 3/ 1	46	27,843	921	28,764	625	594
表装一肉筆浮世絵を彩る 一般1000円、大高生700円、中学生(15歳)以下無料	3/ 6～ 3/29	21	5,489	515	6,004	286	96
令和7年度 合計		260	113,515	5,169	118,684	456	2,946

2. 浮世絵その他の美術品の収集、保存

1) 美術品の購入

収蔵品の体系的、通史的なバランス、展示計画を考慮の上、版画を70点購入した。

2) 所蔵品の修復

今年度は所蔵品の修復は行わなかった。

3) 収蔵品の保存

- (1) 浮世絵版画は光に弱く、展示により退色が進むため、作品の展示期間を厳正に管理した。また、温湿度管理、照度管理も厳格に行い、作品保護に努めた。
- (2) 美術品目録と美術品現物との照合は通常3年周期で実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響および館内スケジュールの都合により延期が続いていた。令和8年1月に照合作業を開始し、全作品の照合終了は令和8年秋頃を予定している。

3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動

1) 講座等の開催

- (1) 下記の講座を開催した。

① 江戸文化講座

浮世絵にとどまらず、江戸時代全般へ視点を広げ、さまざまな分野の専門家から江戸の文化を学ぶという趣旨の下、全3回の連続講座を開催した。

受講料は一般6,000円、パスポート会員5,000円(全3回分)。受講料に展覧会入場料含む。

講座テーマ 装う浮世絵 ―春信の恋・国貞の粋・国芳一門の華―

講師 國學院大學教授 藤澤紫、神奈川大学准教授 藤澤茜

申込者数 51名

回数	開催日	演題	受講者数
第1講	3月14日(土)	「春信と恋の装い」	45名
第2講	3月21日(土)	「国貞と役者の装い」	44名
第3講	3月28日(土)	「国芳一門のおしゃれ対決」	50名

(敬称略、肩書きは講座開催当時)

② 夏休み子ども講座

小中学生とその保護者を対象に、以下の講座を開催した。参加費は無料(事前申込・抽選制)。

開催日	演題・内容	参加者数
7月19日(土)	夏休み子ども講座「浮世絵をつくってみよう」 ワークショップ参加者が、摺り師指導の下、実際に浮世絵版画の摺りを体験し、その制作工程を学んだ。 協力：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団	18組 36名

③ 特別講座

「表装 ―肉筆浮世絵を彩る」展の理解を深めるため、展覧会の監修者による特別講座を開催した。

参加費は無料(先着順に整理券を配布)。

開催日	演題・講師	受講者数
3月20日(金・祝)	「浮世絵と表装が合うとき―装いとともにも味わう肉筆浮世絵」 京都芸術大学・大学院講師、早稲田大学講師 濱村繭衣子	74名

(敬称略、肩書きは講座開催当時)

(2) 学芸員によるスライドトーク

入館者を対象に、展示作品をより深く理解し、浮世絵を身近に感じてもらうことを目的として、担当学芸員によるスライドトークを下記のとおり開催した。参加費は無料とし、当日先着順で整理券を配布した。

「葛飾北斎 富嶽三十六景」展においては当初7月31日、8月8日、19日の各日1回・計3回の開催を設定していたが、展覧会の反響が非常に大きく、参加希望者が各日ともに定員を大幅に上回ったため、7月31日、

8月8日は各日2回に増回して実施した。また、8月19日は館内の激しい混雑が予測され、安全確保を最優先する必要が生じたことから、対面形式でのスライドトークを中止し、担当学芸員が本展のために制作した解説動画(スライドトークと同内容)の終日上映に切り替えた。

「浮世絵おじさんフェスティバル」展においても、当初は各日1回・計5回の開催を設定していたが、いずれも予想を上回る反響があり、参加希望者が定員を大幅に超えたため、全日程において、各日2回に増回して対応した。

展覧会名	開催回数	受講者数
没後80年 小原古邨一鳥たちの楽園	6回	385名
緒崎英朋	5回	222名
葛飾北斎 富嶽三十六景	4回	287名
歌川広景 お笑い江戸名所	4回	230名
浮世絵おじさんフェスティバル	10回	690名
表装 一肉筆浮世絵を彩る	2回	137名
合計	31回	1951名

※上記の開催日数および受講者数には、8月19日の解説動画上映は含まない。

(3) 映写会の開催

① 日曜映写会

- 企画展会期中の日曜日に浮世絵の歴史、伝統文化を紹介する映像資料の無料映写会を開催した。

上映内容 『浮世絵 江戸文化の精華(英語字幕付き)』(制作:太田記念美術館)

年間上映回数 54回(1日あたり2回開催)

観覧者総数 1,260名

なお、上映回数、観覧者総数には、終日リピート上映分は含まない。

- 「葛飾北斎 富嶽三十六景」展の会期中における日曜映写会は、混雑緩和対策のため、終日リピート上映にて対応した。上映内容は以下のとおり。

7月27日、8月3日：『浮世絵 江戸文化の精華(英語字幕付き)』

8月10日、17日、24日：「葛飾北斎 富嶽三十六景」展解説動画

- 「浮世絵おじさんフェスティバル」展の会期中における日曜映写会は、混雑緩和対策のため、終日リピート上映にて対応した。上映内容は以下のとおり。

1月11日、18日、25日：『浮世絵 江戸文化の精華(英語字幕付き)』

2月1日、8日、15日、22日、3月1日：本展のために担当学芸員が制作した解説動画(スライドトークと同内容)

- ②「葛飾北斎 富嶽三十六景」展では混雑緩和対策のため、8月5日から会期末までの全日程において、本展のために制作した解説動画を終日リピート上映した。

2) 青少年への教育普及活動

- 青少年への教育普及活動の一環として、美術鑑賞の機会を幅広く提供するため、中学生(15歳)以下の美術館入場料を引き続き無料とした。
- 教育機関の美術鑑賞教育に協力する等、浮世絵美術の教育普及に努めた。

3) 年間パスポート制度

来館者へのサービス向上および浮世絵美術の普及を目指し、「太田記念美術館年間パスポート」制度を引き続き実施した。年会費7,000円。令和7年度会員数は575名であった。

会員証提示により、有効期間内の展覧会期中、何度でも入館することができるほか、絵はがき等のオリジナルミュージアムグッズおよび有料講座受講料の会員割引等の特典を提供した。

4) 館外協力

(1) 教育機関への協力

青少年に対する浮世絵美術の啓蒙・教育を目的として、教育機関の校外学習を受け入れた。うち、学芸員による主な対応は以下のとおり。

実施日	教育機関名	内容
6月22日(日)	二松学舎大学	美術館の活動および展示解説
7月30日(水) 7月31日(木)	渋谷教育学園幕張中学校	学芸員の仕事および展示解説
12月7日(日)	実践女子大学	展示解説
1月30日(金)	早稲田大学	学芸員の仕事および展示解説

(2) 他機関等への協力

① 美術品の貸出を以下のとおり行った。

貸出先	展覧会名	会期	貸出作品・点数
東京国立博物館	蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児	R7. 4.22～ 6.15	肉筆画 1点 版画 3点 版本 2点
サントリー美術館	酒呑童子ビギンズ	R7. 4.29～ 6.15	版画 4点
山種美術館	江戸の人気絵師 夢の競演 宗達から写楽、広重まで 特集展示:太田記念美術館の楽しい浮世絵	R7. 8. 9～ 9.28	版画 25点
すみだ北斎美術館	北斎をめぐる美人画の系譜 ～名手たちとの競演～	R7. 9.16～11.24	肉筆画 6点
東京国立博物館 (会場:石川県立美術館)	令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨 復興支援特別展 ひと、能登、アート。	R7.11.15～12.21	肉筆画 2点 扇 1点
國學院大學博物館	性別越境の歴史学 一男／女でもあり、女／男でもなく	R7.12. 6～ 2.23	版画 2点 版本 1点
三井記念美術館	生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語	R8. 2.21～ 4. 5	肉筆画 1点
東京藝術大学大学美術館 静岡県立美術館 大阪中之島美術館	NHK日曜美術館50年展	R8. 3.28～ 6.21(東京) R8. 7.18～ 9.27(静岡) R8.10.10～12.20(大阪)	版画 10点 版本 1点

② 国際浮世絵学会の研究会開催に以下のとおり協力した。

実施日	参加者数	内容
3月7日(土)	38名	第135回研究会 「表装 一肉筆浮世絵を彩る」展 見学および展示解説

- ③ 山形大学附属博物館と広重美術館が連携し、「天童広重」のVR美術館開設を目指す事業「メタバースで天童広重を世界に」への協力要請を受け、当館が所蔵する歌川広重の肉筆画のうち「天童広重」20件の高精細写真撮影を許可した。撮影作業は12月9日および10日の2日間、当館職員立ち会いのもと実施された。
(文化庁Innovate MUSEUM事業 令和7年度MuseumDX推進事業 中核館:山形大学附属博物館)

(3) 調査研究依頼への協力

所蔵品の特別観覧の申請に対し、以下のとおり協力した。

観覧日	観覧者	調査内容
4月15日(火)	桑名市博物館 1名	春木南湖他 扇9点
4月22日(火)	三井記念美術館 1名	菱川諸房 肉筆画1点
5月21日(水)	中山道広重美術館 1名	歌川国芳他 版画12点
6月17日(火)	ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー) 1名	三代歌川広重他 肉筆画3点、下絵240点
6月25日(水)	明治学院大学 2名	勝川春章 肉筆画1点
11月19日(水)	東京富士美術館 1名	歌川豊国他 版画6点
12月21日(日)	東京藝術大学大学美術館 2名	歌川国芳他 版画10点
3月19日(木)	すみだ北斎美術館 1名	歌川広重 版画11点

5) 広報活動

(1) マスメディア

① 記者内覧会

各展覧会において記者内覧会を開催し、展覧会開催の効果的かつ幅広い周知のため、担当学芸員が見どころや作品解説を行った。

- ② 展覧会ごとにプレスリリースを作成し、マスコミ各社へ配信するとともに、ウェブサイトにて情報を公開した。

- ③ 浮世絵関心層の増加、美術館の認知度向上および展覧会のPRを目的とし、新聞、テレビ番組、雑誌等の取材協力を積極的に行った。主な協力内容は以下のとおり。掲載・放送日は初回のみ記載。

掲載・放送日	媒体	内容
5月10日(土)	NHK BS 浮世絵れぼりゅーしょん! 令和の写楽を探せ	アダチ版画研究所が立ち上げた「現代の浮世絵・国際創造プロジェクト」を追った番組。写楽作品の撮影に協力するとともに、当館学芸員が出演し、「雲母擦り」について解説した。
5月13日(火)	NHK Eテレ 先人たちの底力 知恵泉	特集「不屈の美術商 林忠正 “国賊”と呼ばれて」 林忠正の印章を捺した喜多川歌麿の浮世絵を紹介 作品撮影、取材協力、出演
6月23日(月)	毎日新聞夕刊	「鰯崎英朋」展を紹介
7月 6日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「鰯崎英朋」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
8月15日(金) 8月21日(木)	テレビ朝日 グッド！モーニング	「葛飾北斎「富嶽三十六景」」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
8月30日(土)	NHKワールド 「History Uncovered: The Hiroshige Code」	歌川広重「名所江戸百景」を紹介 作品撮影、取材協力、出演

掲載・放送日	媒体	内容
9月 6日(土)	テレビ東京 新美の巨人たち	「葛飾応為「吉原格子先之図」×高島礼子」 葛飾応為「吉原格子先之図」を紹介 作品撮影、取材協力、出演
9月16日(火)	テレビ朝日 グッド！モーニング	「蔦屋重三郎と版元列伝」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
10月11日(土)	テレビ朝日 サンドウィッチマン&芦田 愛菜の博士ちゃん	「世界に誇る天才絵師 葛飾北斎ミステリー2時間スペシャル！」 葛飾北斎「富嶽三十六景」、葛飾応為「吉原格子先之図」の撮 影および取材協力
10月19日(日)	NHK Eテレ 日曜美術館アートシーン	「蔦屋重三郎と版元列伝」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
12月 2日(火)	朝日新聞夕刊 美の履歴書	歌川広景「江戸名所道戯尽 十四 芝赤羽はしの雪中」を紹介 （「歌川広景 お笑い江戸名所」展出品作品）
12月 8日(月)	テレビ朝日 グッド！モーニング	「歌川広景 お笑い江戸名所」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
1月19日(月) 1月27日(火)	テレビ朝日 グッド！モーニング	「浮世絵おじさんフェスティバル」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演
1月29日(木)	東京新聞 お出かけ街ナビ	「浮世絵おじさんフェスティバル」展を紹介
2月 5日(木)	日本テレビ ZIP!	「浮世絵おじさんフェスティバル」展を紹介 作品撮影、取材協力、出演

- ④ 2月19日付朝日新聞「天声人語」にて「浮世絵おじさんフェスティバル」展が取り上げられ、展覧会の認知度拡大および集客に大きく寄与した。
- ⑤ 写真資料の提供を希望する各種メディアに対し、利用目的等を確認の上で貸出を行い、江戸文化、浮世絵美術の普及に努めた。

(2) 印刷物の作成・配布

- ・令和7年度年間スケジュールを館内にて配布した。
- ・各展覧会のポスターおよびチラシを作成し、館内にて掲示・配布を行った。また、美術館、博物館、教育機関、公共機関等へも配布し、展覧会、催事の周知に努めた。
- ・第42回浮世絵研究助成の募集要項チラシ(日本語・英語両面)を作成し、館内にて掲示・配布するとともに、美術館、博物館、教育機関、公共機関等へチラシ配布を行い周知に努めた。

(3) ウェブサイト、ソーシャルメディアの運用

① ウェブサイト

館案内、展覧会等の情報を展開し、年間を通して随時情報の更新を行った。

② X(旧Twitter)

口コミによる情報拡散を狙い、X(旧Twitter)を活用して展覧会や催事等の情報を積極的に発信し、集客力および幅広い年齢層への認知度の向上に努めた。また、展示作品にとどまらず、季節や身近な話題に合わせた浮世絵を紹介することで、新たな美術関心層の発掘を図った。さらに、他館の展覧会情報を告知・紹介

し、美術館・博物館業界全体の普及活動に貢献した。フォロワー数は令和8年3月31日現在208,149名。

③ Instagram

令和7年度から新たにInstagramの運用を開始した。展覧会情報やミュージアムグッズ等の魅力を視覚的に訴求することにより、X(旧Twitter)とは異なる新たなファン層の開拓に努めた。

④ note

浮世絵美術普及のため、メディアプラットフォーム「note」による情報発信を行った。

・無料配信

幅広い層の人々が浮世絵に親しみを感じ、興味関心を抱くよう、様々な切り口から、浮世絵の情報、浮世絵師の逸話などのコラム、展覧会紹介記事等を執筆し、無料で配信しており、令和2年8月に配信をスタートして以来、公開中の記事は累計173本となった。

令和7年度は新たに「『葛屋重三郎と版元列伝』にて展示の国立国会図書館の所蔵品をご紹介！」を含む無料記事8件を公開した。

・有料配信

「オンライン展覧会」と銘打ち、出品作品の画像と解説を有料記事として2本配信した。

年間の「オンライン展覧会」購入件数は282件で、そのうち令和7年度配信開始分の購入件数は135件だった。詳細は以下のとおり。

配信開始日	記事名	購入件数	内容
8月10日(日)	【オンライン展覧会】 「葛飾北斎 富嶽三十六景」展	68	実際の展覧会と連動 販売価格：1,200円
1月18日(日)	【オンライン展覧会】 「浮世絵おじさんフェスティバル」展(通期)	67	実際の展覧会と連動 販売価格：1,800円

⑤ YouTube

太田記念美術館公式YouTubeチャンネルにて、集客力および認知度向上のため、展覧会関連動画を2本制作し配信した。詳細は以下のとおり。

配信開始日	動画タイトル	内容
8月 5日(火)	「葛飾北斎 富嶽三十六景」展 スライドトーク	「葛飾北斎 富嶽三十六景」展鑑賞の補助を目的としたスライドトークの動画
1月31日(土)	浮世絵おじさんフェスティバル スライドトーク	「浮世絵おじさんフェスティバル」展鑑賞の補助を目的としたスライドトークの動画

6) 他館との連携

- (1) 山種美術館と連携し、入館料の相互割引サービスおよびポスター・チラシの相互掲出を、引き続き行った。
- (2) 戸栗美術館と連携し、入館料の相互割引サービスおよびポスター・チラシの相互掲出を、引き続き行った。
- (3) 千葉市美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員と千葉市美術館友の会会員の相互割引サービスを、引き続き行った。
- (4) サントリー美術館と連携し、太田記念美術館年間パスポート会員とサントリー美術館メンバーズクラブ会員の相互割引サービスを、引き続き行った。

- (5) 「蔦屋重三郎と版元列伝」展において、「五館連携 蔦重手引草」と銘打ち、下記のとおり都内の4施設と多分野連携展示(文学史、浮世絵史、近世史、印刷史)を行った。連携施設共同で作成した共通チラシの設置・配布を行うとともに、来館特典として漫画家・一ノ関圭氏の描き下ろしイラストカード(全5種 蔦重、南畝、京伝、歌麿、写楽)を共同で作成し、各館先着2,000枚の限定配布を実施した。当館は写楽カードの配布を担当した。

施設名	展覧会名	会期
大東急記念文庫	五島美術館 展示室2 特集展示 「蔦屋重三郎 ―江戸には江戸の風が吹く―」	9月 2日～10月19日
印刷博物館	ミニ展示「あれもこれも蔦重！お江戸の名プロデューサー蔦屋重三郎」	9月 2日～11月 3日
国文学研究資料館	特設コーナー展示「蔦重、圧巻。大・中・小～書型に見る蔦重版」	10月 1日～11月28日
たばこと塩の博物館	ミニ企画「18世紀のおもちゃ絵と蔦屋重三郎版のおもちゃ絵」	10月 4日～11月 5日

- (6) 「蔦屋重三郎と版元列伝」展において、「べらぼう 江戸たいとう 大河ドラマ館」(令和8年1月12日閉館)と連携し、入館料の相互割引サービスおよびポスター・チラシの相互掲出を行った。

7) 地域との連携

- (1) 東京地下鉄株式会社、東京都交通局の行う観光客向けサービス「ちかとく」に引き続き参加し、対象乗車券の提示により入場料割引を行った。

(2) 複合文化施設「Bunkamura」との連携

- ① 「Bunkamura」が展開するPRプロジェクト「渋谷アート」に、連携施設として引き続き参加した。「渋谷アート」とは、「渋谷」をテーマに、渋谷を中心とする美術館・文化施設の魅力を発信し、地域の魅力向上やエリア集客等に貢献する活動。
- ② オンラインチケットサービス「MY Bunkamura」にて、展覧会チケットの委託販売を引き続き行った。

8) ミュージアムグッズ等の製作・販売

- (1) 来館の記念となり、商品購入が美術への親しみや関心を深めるきっかけとなることを目的とし、オリジナルグッズを製作・販売した。また、展覧会に関連したグッズ、復刻浮世絵版画、浮世絵関連書籍等を販売した。当館のミュージアムショップは美術館入館受付と兼ねているため、限られたスペースの中で来館者のニーズに沿うべく、販売商品を考慮のうえ選定し、充実を図った。また、普段は当館に足を運ぶことの少ない青年層やファミリー層等の来館を促すような、魅力あるグッズの開発に注力した。

令和7年度に製作したオリジナルグッズは以下のとおり(再販含む)。

- ・絵はがき 59種(通年販売24種、令和7年度展覧会用35種)
- ・クリアファイル 5種(通年販売3種、令和7年度展覧会用2種)
- ・アクリルスタンド 4種(通年販売、うち1種は令和7年度展覧会用に新規制作)
- ・シール 2種(通年販売、令和7年度展覧会用 各1種)
- ・ポチ袋 通年販売1種

- (2) 太田記念美術館オリジナルLINEスタンプ(虎子石イラスト1種)を引き続き販売した。

(3)「浮世絵おじさんフェスティバル」展において、中山道広重美術館の図録およびミュージアムグッズを受託販売した。

(4) ひろしま美術館「Ukiyo-e猫百科 ごろごろまるまるネコづくし」展(4月26日～6月22日)において、同館からの要請に基づき、当館オリジナルグッズ(マスキングテープおよびクリアファイル各1種)を委託販売した。

9) その他

(1) 展覧会毎に作品リスト(日本語版・英語版)を作成し、館内で配布するとともに、ウェブサイトの展覧会ページからダウンロードできるようにした。

(2) 展覧会毎に作品タイトル、主だった展示解説について和英表記を行った。また、英語対応の可能な職員が常駐し、外国人観光客の受け入れ態勢の充実に努めた。

(3)「鱧崎英朋」展、「蔦屋重三郎と版元列伝」展において、会期中2回目以降の来館者に対し、リピーター向け入館料割引を実施した。

(4)「蔦屋重三郎と版元列伝」展、「表装―肉筆浮世絵を彩る」展において、きもの割引を実施した。

4. 浮世絵研究者の育成および助成

1) 内外の新進浮世絵研究者育成のため、第42回浮世絵研究助成を公募し、令和8年2月3日、応募7編全てを選考委員会で審査した結果、下記の研究テーマを選入した。

選考委員は、河野元昭氏(東京大学名誉教授)、大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)、大石学氏(東京学芸大学名誉教授)、鈴木章生氏(目白大学教授)、日野原健司(太田記念美術館 主席学芸員)の5名。選考委員の肩書きは選考会当時のもの。

入選者(敬称略)	入選研究テーマ	助成金
神谷 蘭	三代広重が参加した贈答品としての画帖制作について	800,000円

2) 令和8年3月刊行の『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第16号』に、令和5年度第40回浮世絵研究助成入選者である大久保範子氏による研究成果に基づいた論文の提出を受け、掲載した。

3) 浮世絵研究者の育成を目的として、研究成果発表の機会を提供することにより、研究活動の支援ならびに研究者相互の交流を図るため、例年開催していた若手研究者の講演会は、展示スケジュール等との兼ね合いから開催を見送った。

5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版

1) 作品の調査研究

(1) 展覧会開催やSNS等での情報発信のため、収蔵品の調査研究を行った。また、特別展開催に向けて他の美術館、博物館、ならびに個人所蔵の関連作品の情報収集を行うとともに調査研究ならびに出品交渉を行った。

(2) 展覧会毎に、来館者の鑑賞体験の充実に支援するための解説パネルの原稿を執筆した。

2) 資料・図書の充実

- (1) 収蔵品の調査研究および図録、ブックレット等制作のため、写真撮影を行った。
- (2) 作品管理の簡便化を図るため、主要収蔵品についてデジタルデータ化を進めた。
- (3) 展覧会開催および調査研究に必要な図書資料等を購入した。
- (4) 新収蔵品について作品情報データベース、美術品目録、作品カードの整備を行った。
- (5) 立命館大学アトリサーチセンター(ARC)と連携し、太田記念美術館収蔵品データベース作成のための撮影業務を、令和5年度から進めている。令和6年2月に版面全点(当時)、版本の一部の撮影が終了し、ARCより完成したデータベースの提供を受け、令和6年度から研究活動等に活用している。なお、ARC側の都合により、肉筆画を中心とした撮影は延期となっている。
本件は、撮影およびデータベース作成費用、管理・運用全般はARCが負うという条件での全面協力であり、公開範囲は当面の間、当館職員およびARC研究員に限定としている。

3) 展覧会図録等の刊行

- (1) 展覧会の開催にあわせ、以下の図録を刊行し、当館学芸員の研究論文を掲載した。
 - ・『鰭崎英朋』
日野原健司 「鰭崎英朋の画業―「最後の浮世絵師」として」
 - ・『葛屋重三郎と版元列伝』
赤木 美智 「浮世絵の版元たち」「浮世絵風景画と版元 西村屋与八と竹内孫八」
渡邊 晃 「西村屋与八と役者絵の出版」
日野原健司 「明治の版元 大黒屋松木平吉と滑稽堂秋山武右衛門」
- (2) 展覧会の開催にあわせ、以下のブックレットを刊行した。
 - ・『表装 一肉筆浮世絵を彩る』
- (3) 「葛飾北斎 富嶽三十六景」展の開催にあわせ、平成31年4月刊行の図録『葛飾北斎富嶽三十六景 奇想のカラクリ(新装版)』の仕様等を変更し、刊行した。
- (4) 『太田記念美術館紀要 浮世絵研究 第16号』を刊行し、当館学芸員の研究論文を掲載した。
日野原健司 「幕末における遊女絵の変遷」
- (5) 以下の書籍の監修、執筆を行った。
 - ・『さがしえほん こわい浮世絵 おばけやしき』
監修：太田記念美術館 執筆：日野原健司
発行：株式会社 講談社(令和7年7月)
- (6) 以下の展覧会の開催にあわせ、「オンライン展覧会」と銘打った記事を執筆し、メディアプラットフォーム「note」を利用して有料で配信した。詳細は「3. 浮世絵美術ならびに江戸文化の啓蒙普及活動」に記載。
 - ・「葛飾北斎 富嶽三十六景」展
 - ・「浮世絵おじさんフェスティバル」展

6. 美術館の運営

1) 美術館改修工事

(1) 11月4日から13日まで休館し、以下の工事を実施した。

2階防火ダンパーおよびダクト改修工事、電灯盤および一部動力ブレーカー改修工事

(2) 12月15日から31日まで休館し、視聴覚室照明LED化工事を実施した。

2) 施設の整備

(1) 来館者が安全、快適に過ごせるよう、適切な保安全管理に努めた。

(2) 消防設備点検において、1階・地下1階間階段の誘導灯バッテリー不良の指摘を受け、照明器具の交換工事を行った。

(3) 地下テナント前の天井漏水に伴い、原因調査および今後のメンテナンスのため、地下1階ロビー点検口新設工事および配管内視鏡調査を行った。

(4) 2階学芸員室の天井漏水に伴う屋上ルーフドレン交換工事および排水管交換工事を行った。

(5) 電気年次点検により電灯回路の絶縁不良が確認され、改修工事を行った。

3) 改正博物館法への対応

(1) 5月22日付で東京都へ博物館等運営状況定期報告書(令和6年度)を提出した。

(2) 立命館大学アトリサーチセンター(ARC)と連携し、令和5年度から撮影を開始した収蔵品データベース化の作業は、ARCより完成したデータベース(全収蔵品の約80%)の提供を受け、令和6年度から研究活動等に活用している。詳細は「5. 浮世絵等の資料収集・整備、調査研究および出版」に記載。

4) 職員への研修等

(1) 学会、会議等への出席

- ・ 4月25日(金) 東京都が開催する第1回美術館・博物館ネットワーク会議(オンライン開催)に出席した。
- ・ 6月21日(土) 国際浮世絵学会 第27回春季大会に出席した。
- ・ 8月 9日(土) 国際浮世絵学会 第133回大会に出席した。
- ・ 11月22日(土) 国際浮世絵学会 第30回秋季大会に出席した。
- ・ 2月25日(水) 令和7年度東京都博物館協議会・日本博物館協会東京支部 第2回研修会(オンライン開催)に出席した。
- ・ 3月 7日(土) 国際浮世絵学会 第135回大会に出席した。

(2) 防災教育の実施

- ・ 7月31日(木) 自衛消防訓練を実施した。
- ・ 12月26日(金) 自衛消防訓練を実施した。

Ⅱ 運営体制の充実を図るための取組

公益財団法人太田記念美術館においては以下のとおり、運営体制の充実を図るための取組を行っている。

1) 法人運営における具体的取組み

- (1) 外部理事は、博物館・美術館の運営の経験がある者、または大学等の教育機関で学術研究の経験がある者に限定して選任している。
- (2) 監事は、法令に準拠した法人運営を担保するため、1名を弁護士とし、財務・会計の正確性および透明性を期すべく、1名を公認会計士または税理士から選任している。

2) 不祥事の予防・発見・事後対応の仕組み

- (1) 当財団では、資金管理における適正性を確保するため、給与支払・取引先への支払等の出金業務において、複数の担当者によるチェック体制を構築している。
- (2) 当財団の公印として財団の代表印・金融機関の届出印・館長印を指定し、その使用目的・使用期日等を記録し、管理保管している。
- (3) 美術品の保管および管理状況を確認するため、美術品目録と美術品現物との照合を、原則3年周期で実施している。

Ⅲ 収益事業(美術館建物の一部を店舗として賃貸する事業)

美術館建物の地下の一部を、てぬぐい専門店である株式会社かまわぬに賃貸した。

IV 理事会・評議員会等の開催

令和7年6月12日	令和7年度第1回理事会	
開催場所	太田記念美術館 視聴覚室	
決議事項	令和6年度事業報告および収支決算の承認の件	原案通り可決
	評議員の候補者承認の件	原案通り可決
	監事の候補者承認の件	原案通り可決
	理事の候補者承認の件	原案通り可決
	評議員会開催の件	原案通り可決
報告事項	代表理事の職務執行状況の報告	
	役員の退任 他	
出席等	定足数5名、出席6名(内オンライン出席1名)、欠席2名、監事出席1名	
令和7年6月24日	令和7年度第1回評議員会(決議の省略)	
決議事項	令和6年度事業報告および収支決算の承認の件	書面決議
	評議員の選任の件	書面決議
	監事の選任の件	書面決議
	理事の選任の件	書面決議
令和7年7月8日	令和7年度第2回理事会(決議の省略)	
	太田幹人を代表理事に選定し、理事長とする件	書面決議
	大塚和晴を代表理事に選定し、副理事長とする件	書面決議
令和8年3月10日	令和7年度第3回理事会	
開催場所	太田記念美術館 視聴覚室	
決議事項	令和8年度事業計画および収支予算承認の件	原案通り可決
	基金への資金繰入承認の件	原案通り可決
	美術品の寄贈受入承認の件	原案通り可決
報告事項	代表理事の職務執行状況の報告	
	役員の就退任、浮世絵研究助成 他	
出席等	定足数5名、出席8名(欠席なし)、監事出席2名	

V 官公庁への届出等

令和7年5月22日	東京都へ博物館等運営状況定期報告書を提出(令和6年度)
令和7年6月26日	内閣府へ事業報告等の提出(令和6年度)を電子申請
令和7年8月26日	内閣府へ変更の届出(評議員・理事の就退任、監事の就任)を電子申請
令和8年3月21日	内閣府へ事業計画書等の提出(令和8年度)を電子申請

令和7年度事業報告の附属明細書について

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和8年6月

公益財団法人 太田記念美術館